

2012年 5月30日

# 2012年3月期 決算説明会

---

日本山村硝子株式会社

代表取締役社長 山村幸治

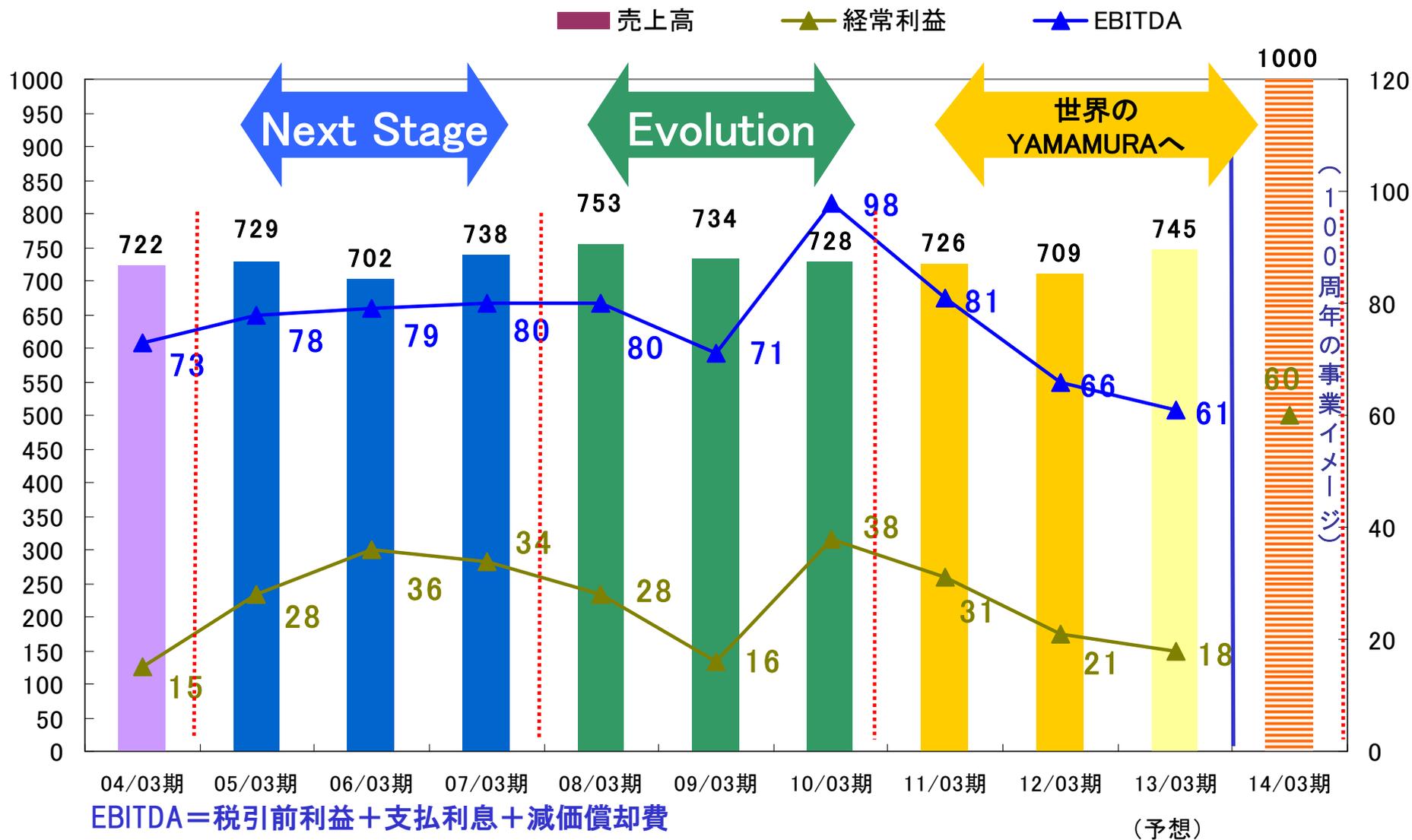
# 目次

---

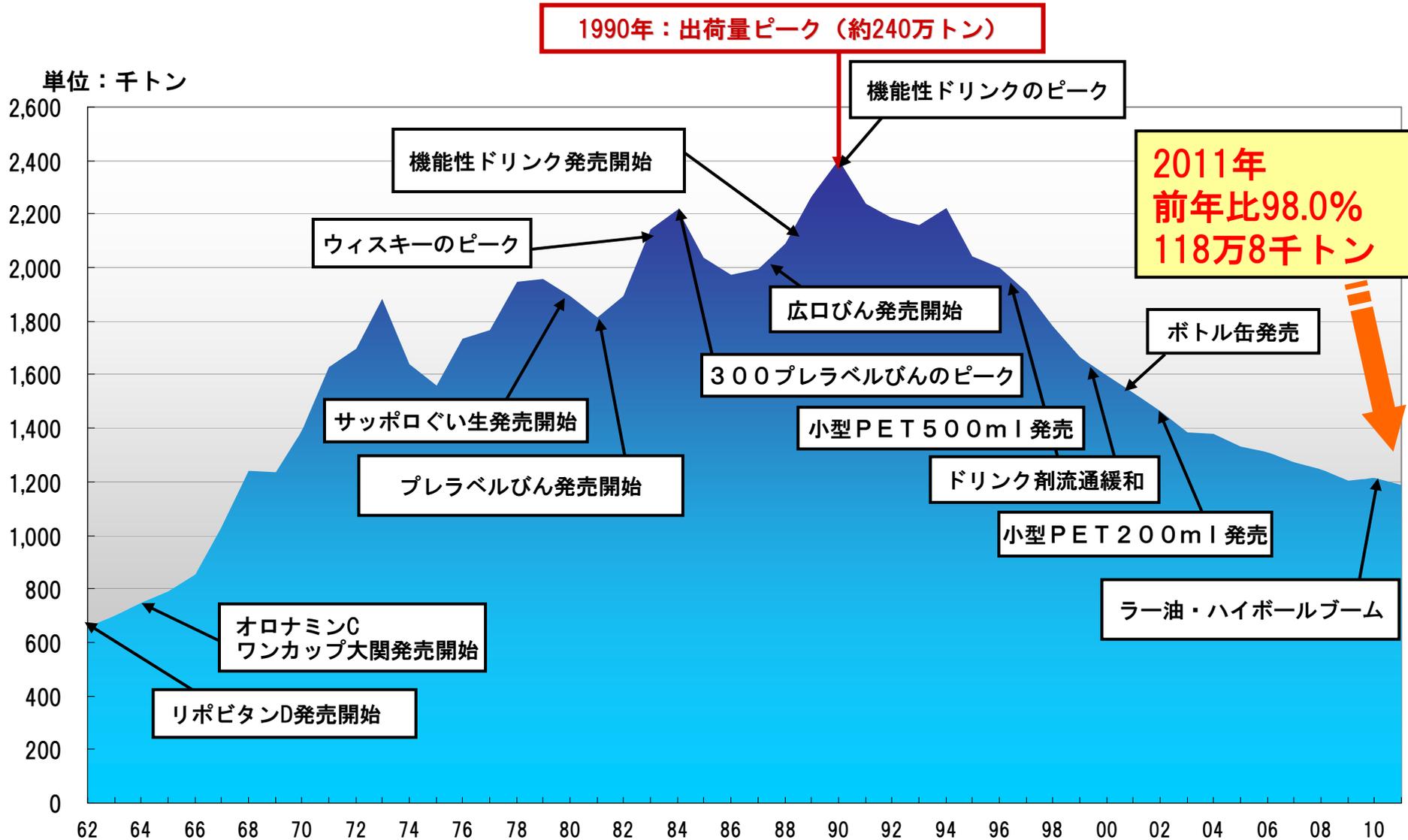
- I 2012年3月期 決算内容
- II 2012年3月期 セグメント別業績と計画
- III トピックス

# 業績推移と計画(10年レンジ)

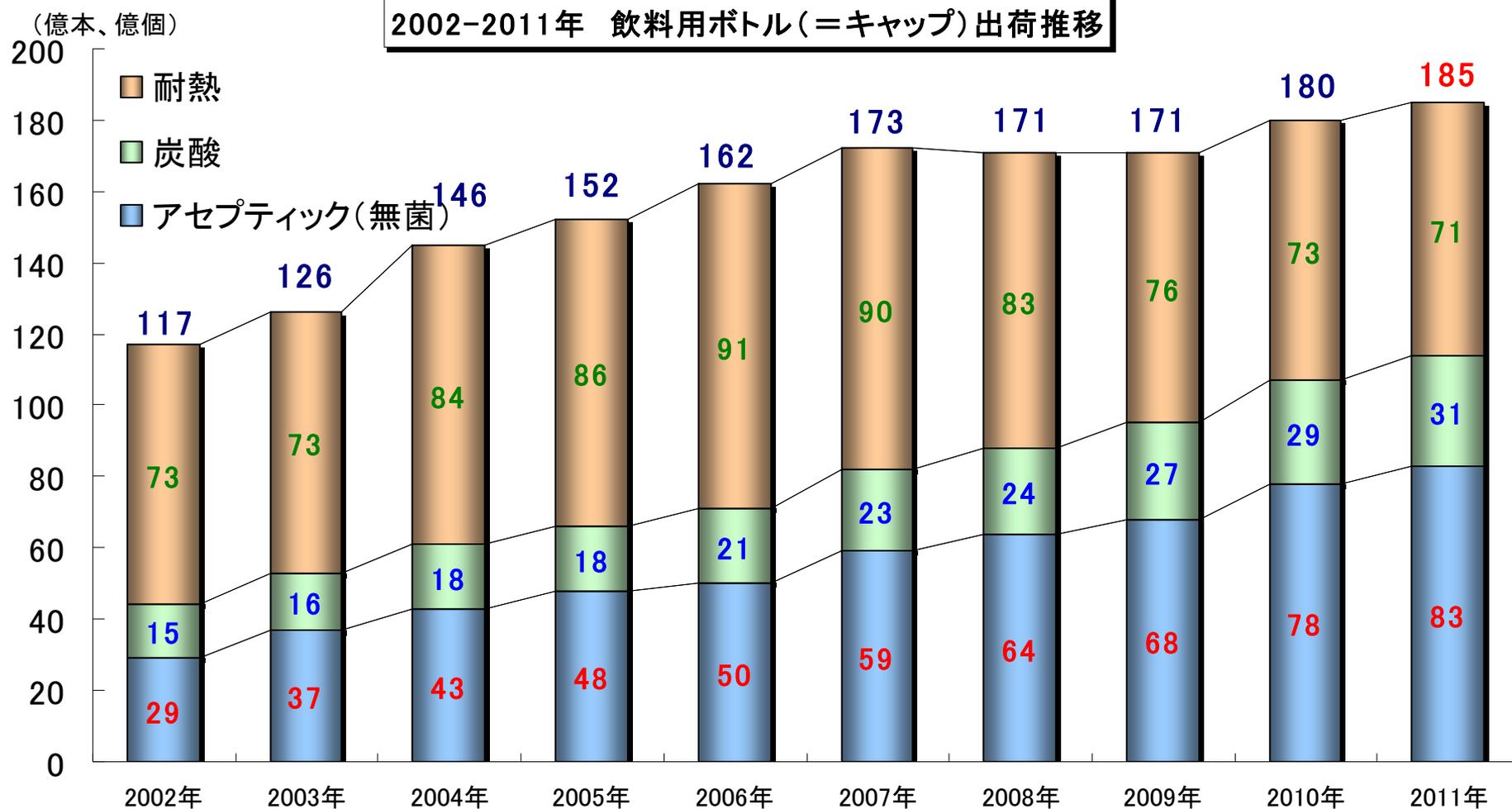
単位: 億円



# 国内ガラスびん出荷量推移(実績)



# 国内ペットボトル出荷量推移(実績)



- ・ 2008～2009年にかけては減少に転じたが、2010～2011年は、猛暑の影響で盛り返し。
- ・ アセプティック充填ボトルが耐熱ボトルを上回る傾向続く。

# I 2012年3月期 決算内容

---

- ◇ 連結損益計算書
- ◇ セグメント情報
- ◇ セグメント別売上高・営業利益構成比
- ◇ 連結貸借対照表
- ◇ 連結C／F計算書

# 連結損益計算書

単位:百万円(百万円未満切捨)

	2011/03	売上高比	2012/03	売上高比	増減額	増減率
売上高	72,600	100.0%	70,928	100.0%	△ 1,671	△ 2.3%
営業費用	69,933	96.3	69,431	97.9	△ 501	△ 0.7
売上原価	58,039	79.9	58,121	81.9	82	0.1
販売費及び一般管理費	11,893	16.4	11,310	15.9	△ 583	△ 4.9
営業利益	2,667	3.7	1,497	2.1	△ 1,169	△ 43.9
営業外収益	1,096	1.5	1,172	1.7	76	7.0
受取利息	7		16			
受取配当金	71		79			
持分法による投資利益	723		762			
その他	293		314			
営業外費用	699	0.9	615	0.9	△ 83	△ 12.0
支払利息	375		343			
その他	323		271			
経常利益	3,063	4.2	2,054	2.9	△ 1,009	△ 33.0
特別利益	399	0.5	2	0.0	△ 396	△ 99.3%
固定資産売却益	14		2			
投資有価証券売却益	43		-			
負ののれん発生益	331		-			
貸倒引当金戻入額	10		-			
特別損失	559	0.9	355	0.5	△ 203	△ 36.4
災害による損失	337		136			
災害損失引当金繰入額	174		-			
固定資産廃棄損	45		74			
投資有価証券評価損	2		117			
支払補償金	-		27			
税金等調整前当期純利益	2,903	4.0	1,701	2.4	△ 1,202	△ 41.4
当期純利益	1,887	2.6	975	1.4	△ 912	△ 48.3

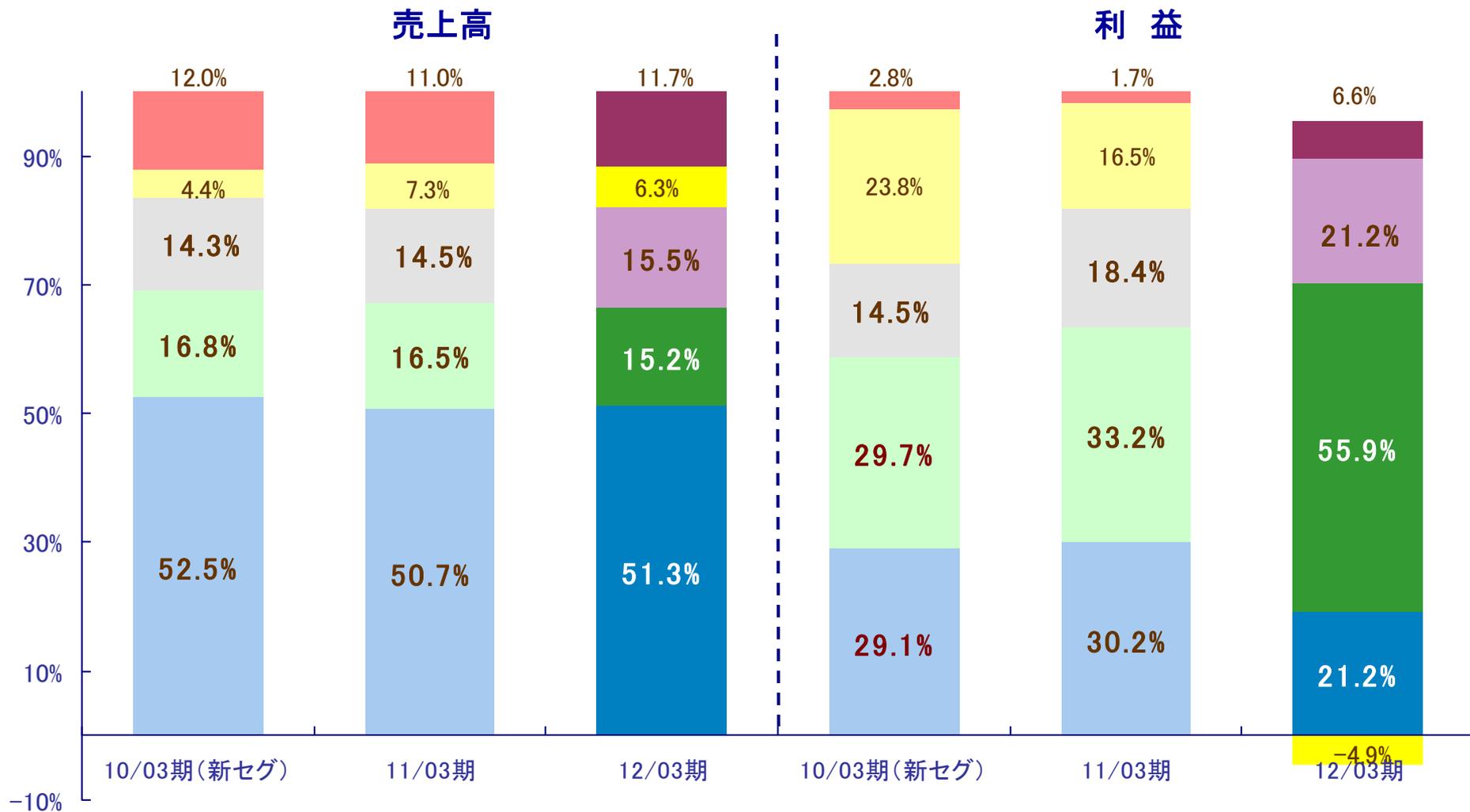
# セグメント情報

セグメント	決算期	売上高	セグメント利益	利益率	概況
		(百万円)	(百万円)	(%)	
ガラスびん 関連事業	12/03期	36,372	300	0.8%	ガラスびん需要の減退により当社の出荷量も毎年減少するなか業界シェアは維持したものの減収。減価償却費・定期修繕費・労務費等の減少はあったものの、原燃料価格上昇による費用負担増などにより減益となった。
	11/03期	36,811	900	2.4%	
	増減率	98.8%	33.4%		
プラスチック 容器関連事業	12/03期	10,789	792	7.3%	東日本大震災の影響からほぼ回復したものの、需要は低迷し、減収。固定費の削減や生産効率の向上等に注力し、修繕費・労務費等の減少はあったものの、原料価格上昇による費用負担増などにより減益となった。
	11/03期	11,981	991	8.3%	
	増減率	90.1%	79.9%		
物流関連事業	12/03期	11,008	300	2.7%	新規物流センターの作業および運送を受注したほか新規開拓により増収となった。しかし既存業務の単価改定や新規業務の立上げに伴う費用負担があり減益となった。
	11/03期	10,528	550	5.2%	
	増減率	104.6%	54.6%		
ニューガラス 関連事業	12/03期	4,494	△ 69	-	前期に子会社化した山村フォトニクス(株)の売上が寄与したものの、当社ニューガラス部門において需要減に伴いプラズマテレビ用粉末ガラス等の出荷が大幅に減少したため減収。そのため、固定費削減等に注力したものの減益となった。
	11/03期	5,298	491	9.3%	
	増減率	84.8%	-		
その他	12/03期	8,263	93	1.1%	エンジニアリング事業が減収となったものの、ガラスびんの高価格製品を集中して受注できたこととペットボトルの出荷が大幅に増えたことで子会社2社が売上を伸ばし、増収・増益となった。
	11/03期	7,979	52	0.7%	
	増減率	103.6%	178.7%		

※百万円未満切捨

(注)セグメント利益は連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

# セグメント別売上高・利益構成比



■ ガラスびん関連事業 ■ プラスチック容器関連事業 ■ 物流関連事業 ■ ニューガラス関連事業 ■ その他

(注) 11/03期よりセグメント区分を変更。10/03期は遡及適用した区分を記載しております。

# 連結貸借対照表(資産の部)

単位:百万円(百万円未満切捨)

	2011/03末	2012/03末	増減額
<b>流動資産</b>	<b>41,109</b>	<b>41,357</b>	<b>248</b>
現金及び預金	12,106	10,752	△ 1,353
受取手形及び売掛金	19,189	19,617	428
商品及び製品	5,763	6,746	983
仕掛品	380	439	58
原材料及び貯蔵品	2,026	2,041	14
その他	1,676	1,805	128
貸倒引当金	△ 33	△ 45	△ 11
<b>固定資産</b>	<b>53,613</b>	<b>50,644</b>	<b>△ 2,969</b>
有形固定資産	32,239	29,962	△ 2,276
無形固定資産	430	350	△ 80
投資その他の資産	20,943	20,332	△ 611
投資有価証券	2,556	2,821	264
関係会社株式	14,459	14,213	△ 246
その他	3,997	3,355	△ 642
貸倒引当金	△ 70	△ 57	12
<b>資産合計</b>	<b>94,722</b>	<b>92,002</b>	<b>△ 2,720</b>

# 連結貸借対照表(負債・純資産の部)

単位:百万円(百万円未満切捨)

	2011/03末	2012/03末	増減額
<b>流動負債</b>	<b>17,510</b>	<b>17,252</b>	<b>△ 258</b>
支払手形及び買掛金	7,209	7,354	145
短期借入金	5,053	6,212	1,159
その他(1年内社債含む)	5,248	3,685	△ 1,563
<b>固定負債</b>	<b>26,317</b>	<b>24,112</b>	<b>△ 2,204</b>
社債	1,000	1,000	-
長期借入金	17,380	15,030	△ 2,350
退職給付引当金	3,549	3,098	△ 451
特別修繕引当金	3,915	4,442	526
その他	471	541	69
<b>負債合計</b>	<b>43,827</b>	<b>41,364</b>	<b>△ 2,463</b>
<b>資本金</b>	<b>14,074</b>	<b>14,074</b>	<b>-</b>
<b>資本剰余金</b>	<b>17,300</b>	<b>17,300</b>	<b>0</b>
<b>利益剰余金</b>	<b>25,665</b>	<b>25,958</b>	<b>292</b>
<b>自己株式</b>	<b>△ 1,218</b>	<b>△ 1,219</b>	<b>△ 1</b>
<b>その他有価証券評価差額金</b>	<b>△ 28</b>	<b>220</b>	<b>248</b>
<b>繰延ヘッジ損益</b>	<b>23</b>	<b>35</b>	<b>11</b>
<b>為替換算調整勘定</b>	<b>△ 4,966</b>	<b>△ 5,775</b>	<b>△ 809</b>
<b>少数株主持分</b>	<b>43</b>	<b>44</b>	<b>1</b>
<b>純資産合計</b>	<b>50,894</b>	<b>50,638</b>	<b>△ 256</b>
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>94,722</b>	<b>92,002</b>	<b>△ 2,720</b>

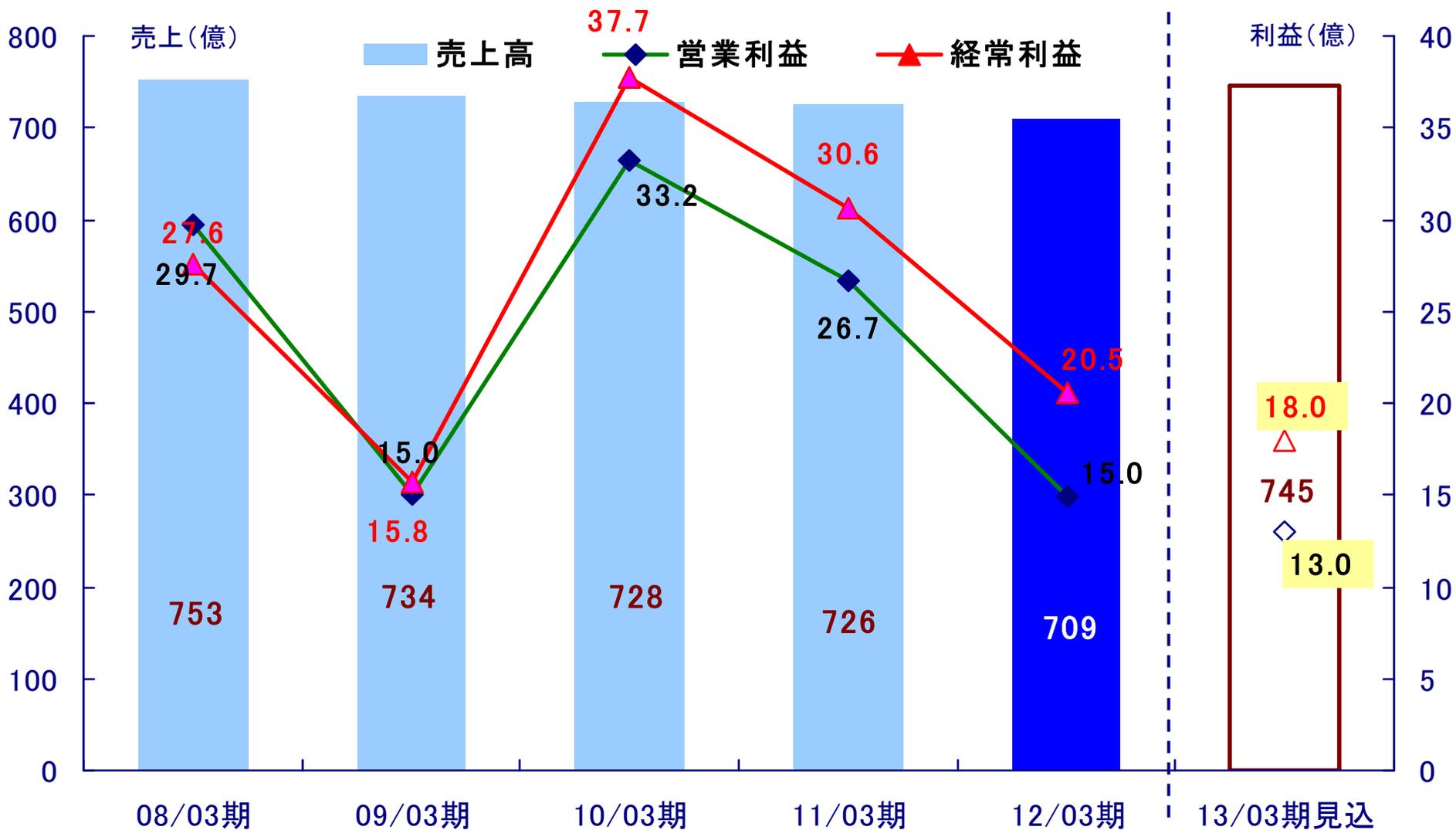


## Ⅱ 2013年3月期 セグメント別業績と計画

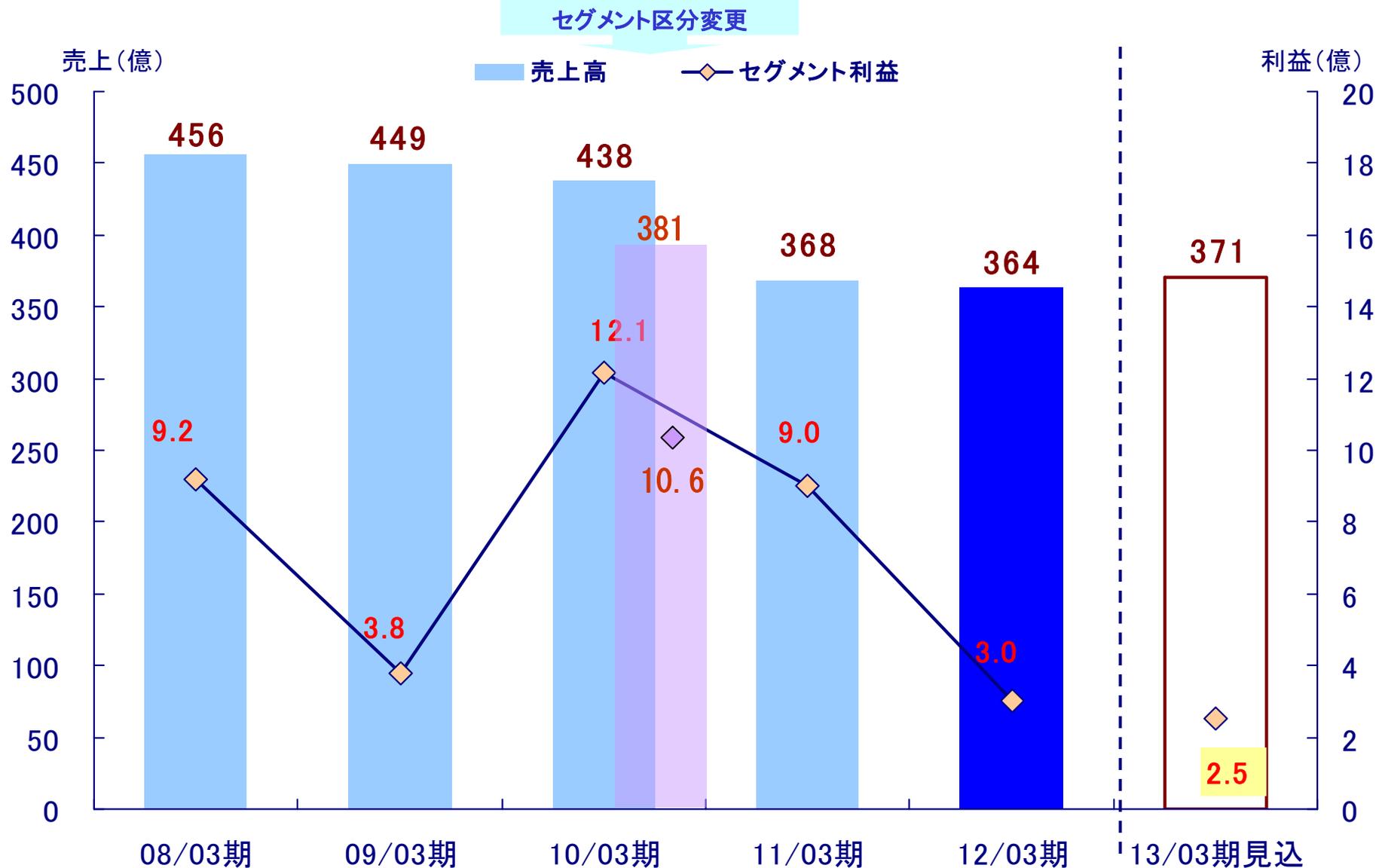
---

- ◇ 連結及びセグメント別業績と計画
- ◇ (ご参考) 海外関係会社の業績推移

# 連結業績推移

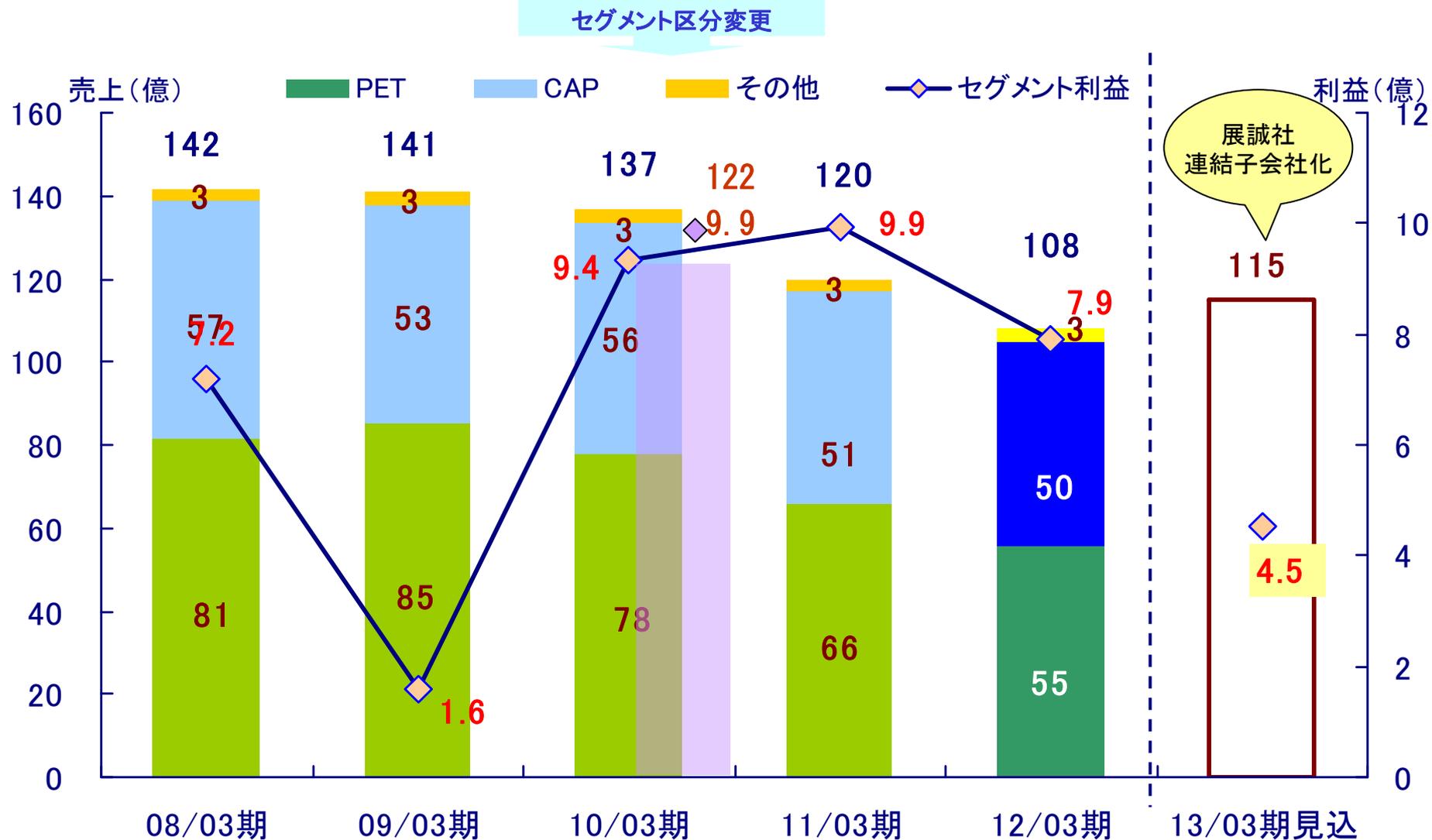


# 業績推移ーガラスびん関連事業



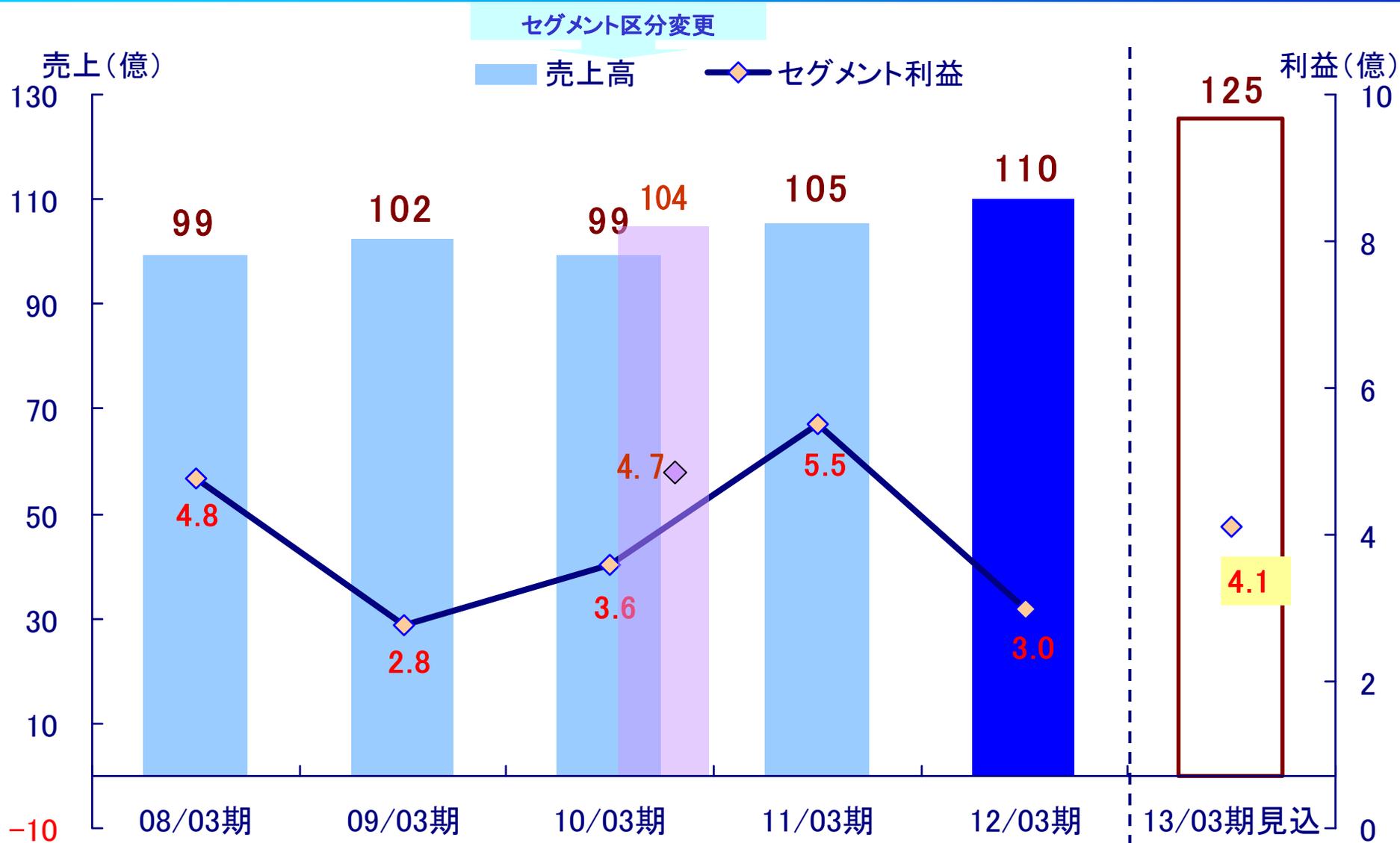
※新セグメントで遡及計算したものの

# 業績推移ープラスチック容器関連事業



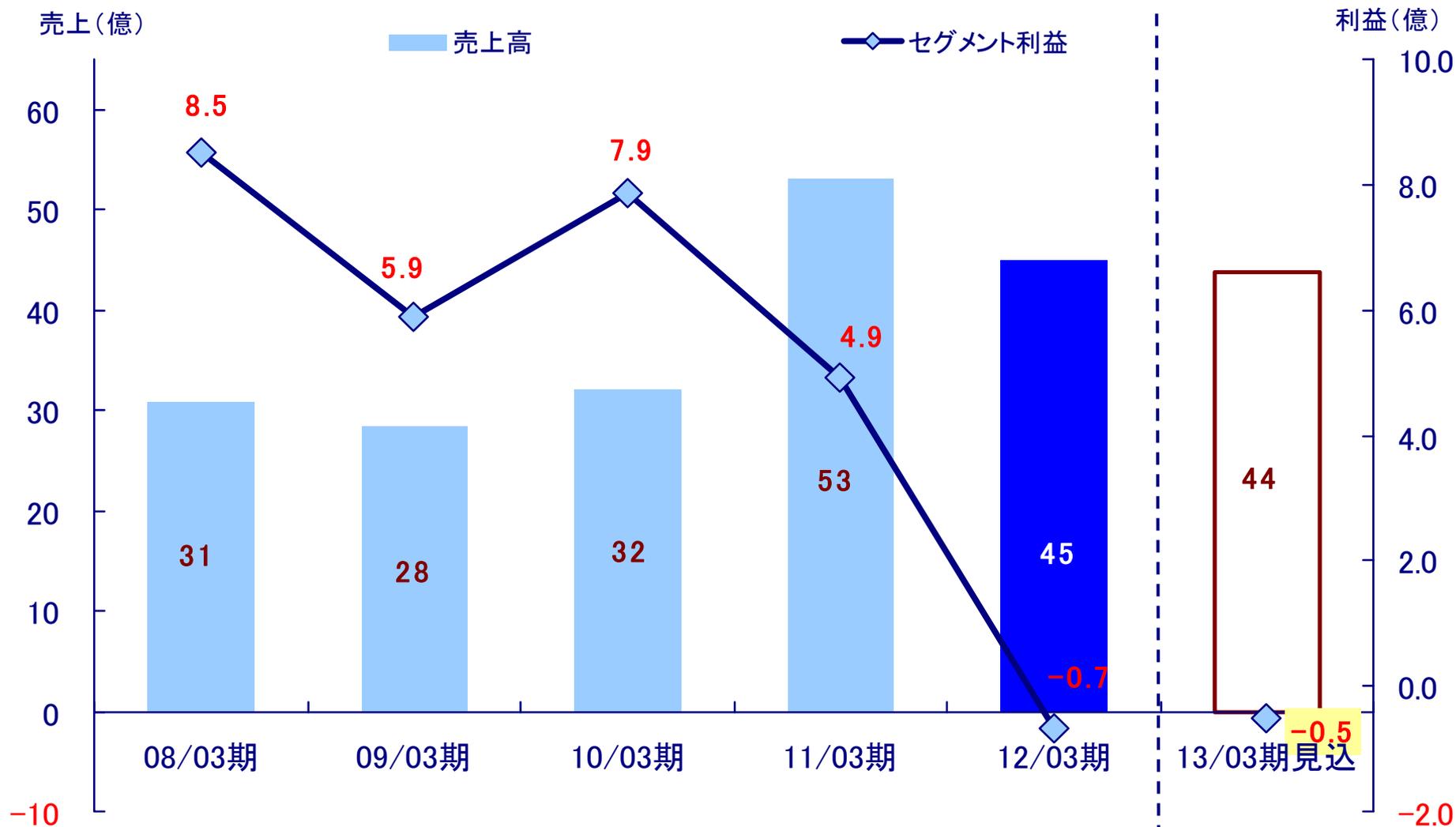
※新セグメントで遡及計算したもの

# 業績推移—物流関連事業



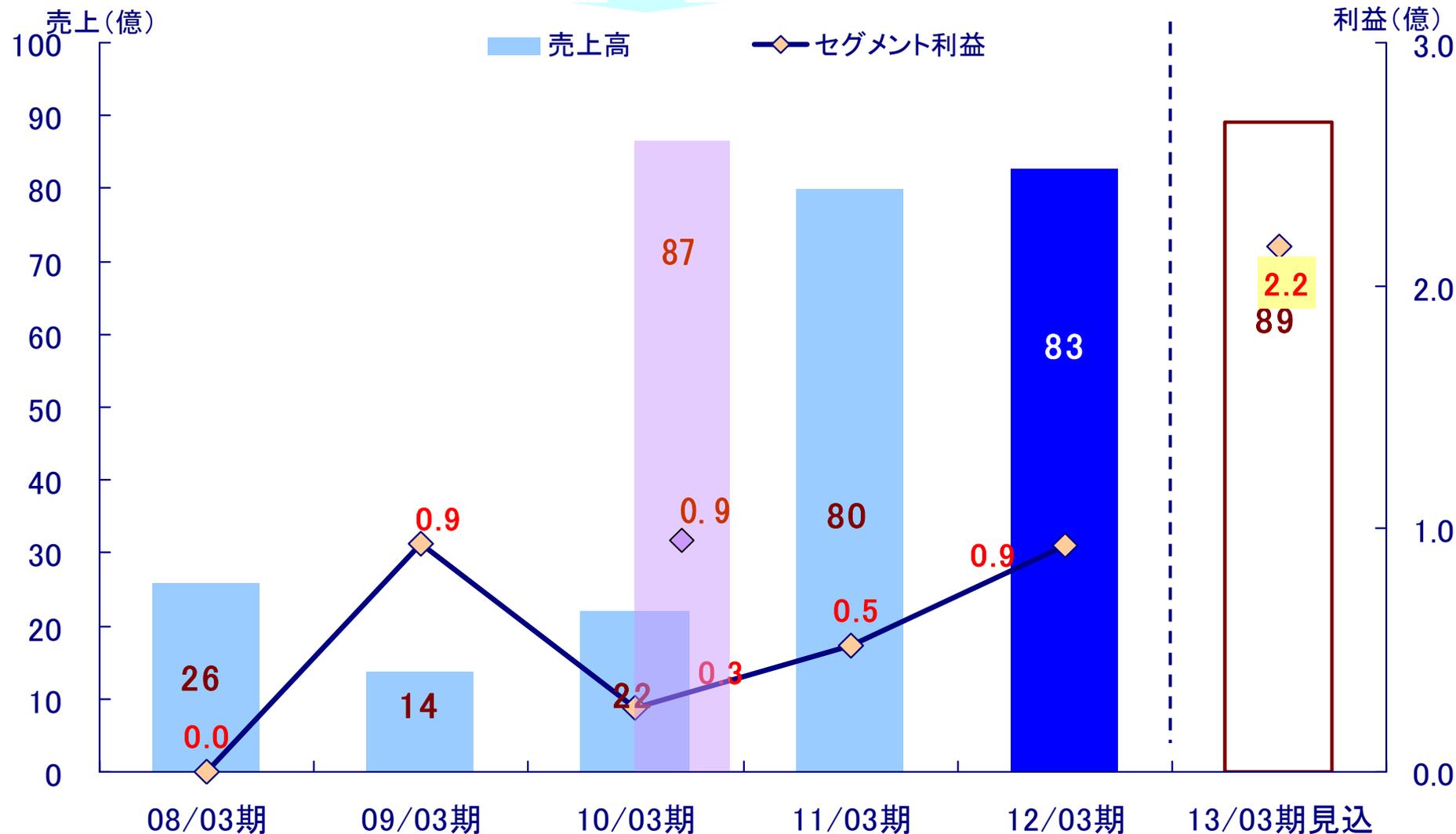
※新セグメントで遡及計算したもの

# 業績推移ーニューガラス関連事業



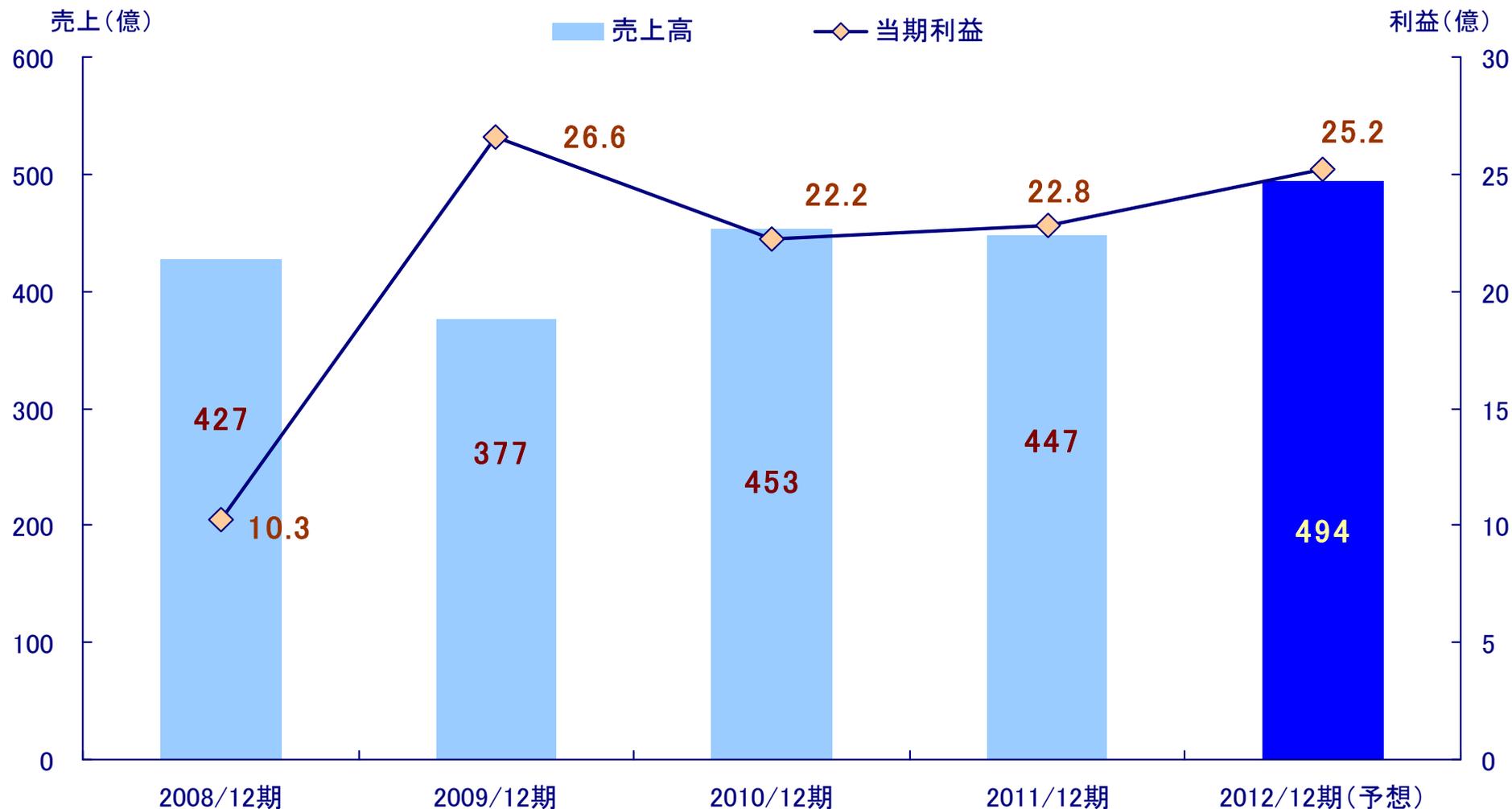
# 業績推移—その他

セグメント区分変更



※新セグメントで遡及計算したもの

# ご参考：海外関係会社の業績推移



注) 当社の利益は持株比率となります。

## Ⅲ トピックス

---

- ◇インドネシアの合併会社を完全子会社化
- ◇研究開発センター棟を建設
- ◇「赤外・紫外・可視光応用技術展」に出展

## Ⅲ インドネシアの合併会社を完全子会社化

当社はこれまで、インドネシアにおいてプラスチック製品の製造と販売を行う会社の株式を49%保有していましたが、この度これを完全子会社いたしました。

完全子会社化により、インドネシアにおける事業の更なる基盤強化を図ると共に、中国の展誠社に次ぐアジアで2番目の独資製販拠点として積極的に展開してまいります。

- ◆会社名 山村ウタマ・インドプラス
- ◆設立 1994年8月（当社資本参加は2010年5月より）
- ◆資本金 163万米ドル（約125百万円）
- ◆所在地 インドネシア国西ジャワ州部ブカシ
- ◆事業内容 ペットボトル用プラスチックキャップ等の製造・販売

## Ⅲ (補足)海外展開の状況

展誠（蘇州）塑料製品有限公司

山硝（上海）商貿有限公司

山村インターナショナル・タイランド

山村ウタマ・インドプラス

## Ⅲ (補足)海外関係会社

	社名	本店所在地	主な業務	出資比率 (%)
海外	展誠(蘇州)塑料製品有限公司	中華人民共和国	プラスチックキャップ等の製造販売	100
	山硝(上海)商貿有限公司	中華人民共和国	包装材料、機械設備等の仕入販売	100
	山村ウタマ・インドプラス社	インドネシア	ペットボトル用プラスチックキャップなどの製造販売	100
	山村インターナショナル・タイランド社	タイ	包装資材の仕入及び輸出入販売	74
	サンミゲル山村アジア社	フィリピン	ガラスびんの製造販売	40
	サンミゲル山村パッケージング社	フィリピン	包装容器の製造販売(フィリピン国内)	35
	サンミゲル山村パッケージング・インターナショナル社	英領バージン諸島	包装容器の製造販売(フィリピン国外)	35

## Ⅲ 研究開発センター棟を建設①

2007年4月に発足した当社研究開発センターでは、次世代のパッケージをはじめ、当社の新しい事業分野を創出すべく、研究開発を進めております。

この度、兵庫県尼崎市の関西本社社屋に隣接した研究開発センター棟を建設し、R&Dのさらなる推進を図ってまいります。

### 概 要

- ・2012年5月28日竣工
- ・建築面積1140㎡  
施工延面積1455㎡



# Ⅲ 研究開発センター棟を建設②

研究開発センター竣工式(2012年5月28日)



# Ⅲ（補足）研究開発センターのテーマ

## 【既存事業とのシナジー】

ネクストパッケージの開発（フィルム製立体容器の開発に着手）

### ポリゴンパックの特徴

- 環境対応（減容化）
  - プラスチック製ボトルと比べて厚みや重量が大幅に減少。
  - 立体形状により、スパウトパウチと比べてフィルム使用量を減量。
- 高自立性
  - 平らで広い底を持ち、内容物が減っても自立を保つ。
- 多面体容器
  - 形状自由性が高く、今までのパウチに無い面白い形状が可能。



# Ⅲ（補足）研究開発センターのテーマ

## 【新しい事業分野への進出】植物工場の開発

- ・新規事業分野への進出を目指し、2006年より取り組みを開始。
- ・付加価値の高い栽培技術と品種を研究開発中。



# Ⅲ「赤外・紫外・可視光応用技術展」に出展

山村フォトニクス社が、横浜で開催された  
「赤外・紫外・可視光応用技術展」に出展しました。

同社は、ガラス材料技術および金属とガラスの溶着技術(GTMS)を技術的基盤に、光とエレクトロニクスをキーワードとしたガラスLID、拡散板ガラスLTCC基板用グリーンシートおよびLTCC基板、ガラスレンズキャップなど、さまざまな製品を展示し、お客様の多様なニーズにお応えしています。

赤外から紫外まで、利用波長の拡大を目指して

## 赤外・紫外・可視光応用技術展

主催：日本光学会（応用物理学会）  
日本フォトニクス協議会（JPC）

開催：2012年4月25日～27日

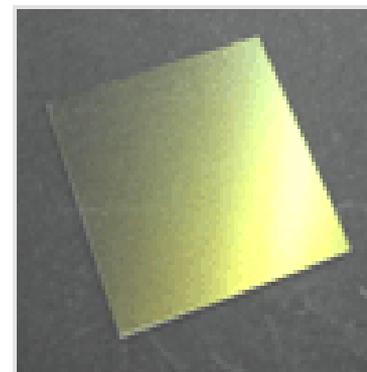
場所：パシフィコ横浜

来場者数：約10,000名

レンズキャップ



拡散板ガラス



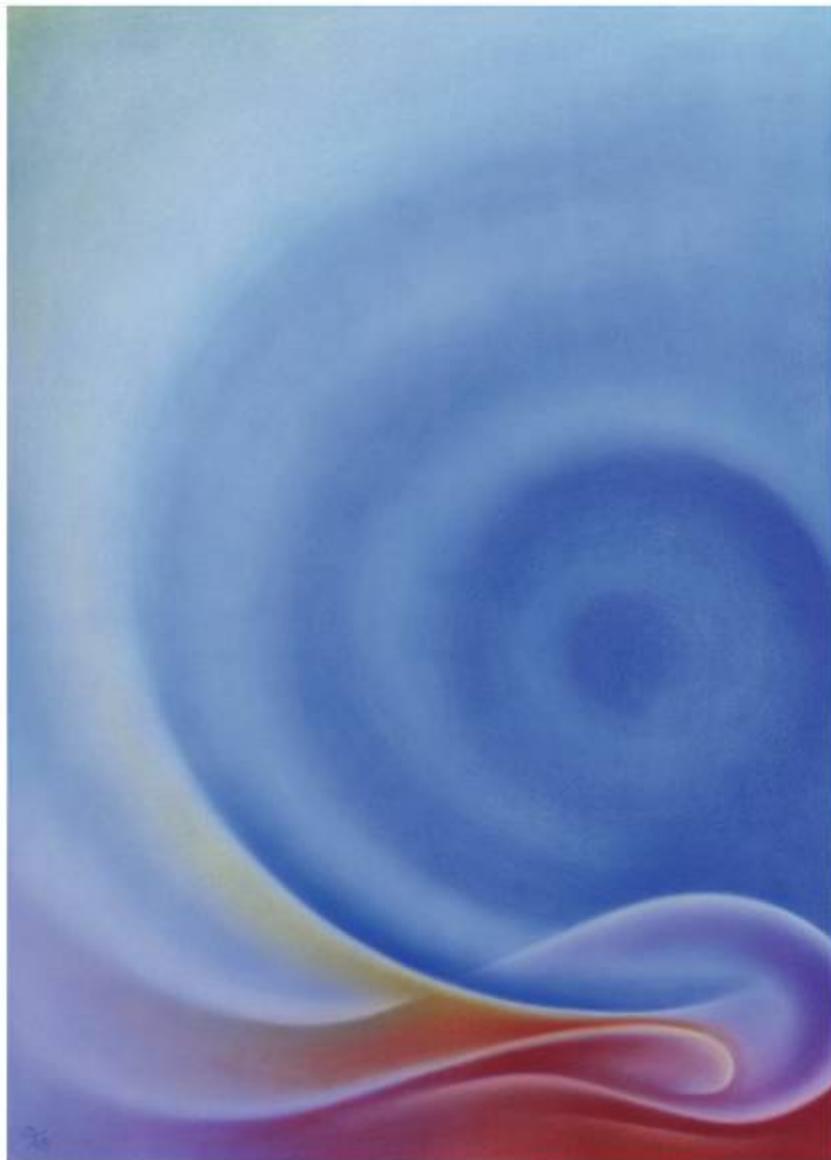
OPTICS & PHOTONICS  
International 2012

2012年より6つの国際会議 OPIC 2012 と連動 !!

2012 4.25wed. ▶ 27fri. パシフィコ横浜 展示ホール、アネックスホール

世界のYAMAMURAへ

—心と技術を伝えたい—



**ご清聴**

**ありがとうございました。**

 **日本山村硝子株式会社**

[http:// www.yamamura.co.jp/](http://www.yamamura.co.jp/)

お問い合わせ先：コーポレート本部広報部長 堤

Tel (03)3349-7219 (ダイヤルイン)

Fax (03)3348-2349

E-mail: [tsutsumi\\_k@yamamura.co.jp](mailto:tsutsumi_k@yamamura.co.jp)

この冊「Vision Art (ビジョンアート)」は、山村硝子株式会社経営幹部全員が「世界のYAMAMURAへ」に対する思いをアーティストに託してもらったものです。  
山村硝子グループが創業以来培ってきた「心と技術を結び社会に貢献する」精神を大切に、世界に誇れる「YAMAMURA」ブランドを築きたい、その意志を1枚の絵で表現しています。

皆さんはこの絵から、何を感じますか?